

令和5年11月24日

関係者各位

公益社団法人日本植物園協会  
会長 西川 綾子  
植物多様性保全委員会  
委員長 遊川 知久

「第2回 種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム—先行事例から学ぶ」  
の開催について（お知らせ）

見出しの件につきまして、下記のとおり開催しますので、ご案内申し上げます。

日本植物園協会では、環境省や各地の植物園等と連携・協力してさまざまな形で植物を守る活動を進めており、日本の植物園で未保有の植物種の種子等収集活動もその一つです。植物の生息域外保全において種子・孢子・組織の保存・利用は、もっとも費用対効果の高い優れた方法ですが、まだ十分に活用されているとは言い難い状況です。

そうした問題点をふまえ、今回のフォーラムでは、すでに多くの実績を上げている事業や研究を紹介し、今後の種子・孢子・組織を使った保全の取り組みの活性化に役立てることを目指します。

記

- 1 名称：第2回 種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム —先行事例から学ぶ
- 2 日時：2023年12月20日（水）13:00～16:00
- 3 方法：オンライン方式（Zoom ウェビナー）
- 4 内容：別紙参照
- 5 申込み：事前の参加申込みが必要です。下記 URL の申込みフォームからお申込みください。11月25日から申し込みが可能です。  
<https://online.npc-tyo.co.jp/event/66953/izxt3m>  
(本フォーラムは、日本印刷株式会社が開催業務を担当します)
- 6 参加費：無料
- 7 その他：事前に申込みのメールアドレス宛に講演資料（PDF）を送信します。
- 8 問合せ先：公益社団法人日本植物園協会事務局 担当：皆川  
メール [ex-situ@syokubutsuen-kyokai.jp](mailto:ex-situ@syokubutsuen-kyokai.jp)

以上

## 【別紙】

「第2回 種子・胞子・組織培養を使った保全フォーラム ―先行事例から学ぶ」

### <開催趣旨>

植物の生息域外保全において、種子・胞子・組織の保存・利用は、もともと費用対効果の高い方法です。日本植物園協会は現在、環境省と連携して保存技術の改良を推進しています。また植物多様性保全拠点園ネットワークでは、環境省・新宿御苑と沖縄美ら島財団が絶滅危惧種を中心に種子・胞子を保存しています。しかしこれまでの各地の保全や野生復帰の取り組みにおいて、リソースはまだ十分に利用されていません。そこで今回は、すでに多くの実績を上げている事業と研究を紹介し、全国の植物園で種子・胞子・組織を使った取り組みが活性化することをめざします。

主催：公益社団法人日本植物園協会

協力：環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室

方法：オンライン（Zoom ウェビナー） 参加費無料

日時：12月20日（水）13時～16時

対象：植物園職員（日本植物園協会会員）、植物保全に関心がある方々、植物園設置者や行政の自然保護担当者、その他

※本フォーラムは、環境省と日本植物園協会の「生物多様性保全の推進に関する基本協定」にもとづき開催します。

### <プログラム>

司会進行：平野 智也（宮崎大学 農学部）

□13:00 開会挨拶 日本植物園協会会長 西川 綾子

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 福島 誠子

□13:10～ 講演

◆遊川 知久（日本植物園協会 植物多様性保全委員会 国立科学博物館 筑波実験植物園）

「植物保全の切り札 種子・胞子・組織保存」

◆関 勝雄（環境省 新宿御苑 管理事務所）

「絶滅危惧種の種子・胞子保存とこれからの利用に向けて」

◆倉本 宣（明治大学 農学部）

「カワラノギクの保全再生活動と研究活動」

<休憩>

◆山本 伸一（農研機構 遺伝資源研究センター）

「農作物遺伝資源の種子・組織保存から利用まで」

◆木村 恵（秋田県立大学 生物資源科学部）

「森林の多様性を維持するための種子の利用」

□15:30～16:00 質疑応答、フォーラム総括

□16:00 閉会（閉会後に簡単なアンケートを行ないます）